

令和6年度第1回津島市総合教育会議 議事録

1. 日時

令和6年8月19日（月） 午後2時00分から午後3時10分まで

2. 場所

津島市役所 3階市長公室

3. 出席者

構成員：日比市長、浅井教育長、小出委員、古川委員、奥村委員、畑中委員

事務局：市長公室長、教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長兼東公園整備推進室長、企画政策課長、学校教育課長、指導主事、社会教育課長、担当職員1人

傍聴者：0人

4. 議事

- ① T P P プログラミング教育について
- ② 津島市スポーツ推進計画（仮称）について

5. 会議内容

1) あいさつ

（日比市長）

- ・ 本年も厳しい暑さが続いており、連日のように熱中症警戒アラートが発令されている。これまでに、すべての小中学校の体育館にスポットエアコンを整備しているが、先月、葉苧スポーツの家と生涯学習センターの体育室に壁掛けタイプのスポットエアコンを各4台設置した。市民の皆様には、夏の暑い時期でも、熱中症等に十分注意しながら、安心してスポーツを楽しんでいただきたい。
- ・ 2月に開催した前回の会議では、「令和6年度予算における主な事業について」、「学校施設長寿命化計画について」の2件を議題として、貴重なご意見をいただいた。
- ・ 今回は、「T P P プログラミング教育について」と「津島市スポーツ推進計画（仮称）について」の2件を議題としている。いずれも、本市が現在進めている教育施策に関連する内容となっている。
- ・ 前回同様に、有意義かつ活発な意見交換をしていきたい。

(浅井教育長)

- ・今朝、パリオリンピックに出場したバスケットボールの山本麻衣選手が来てくださって、楽しい時間を持つことができた。
- ・本日の議題であるT P Pプログラミング教育について、8月9日(金)にT P Pプログラミング大会市長杯を開催し、当日は250人を超える方が出席した。子どもたちの楽しく学ぶ様子を見て、大学の先生方をはじめ、多くの方から、2年間でよくここまで到達することができたとお褒めの言葉をいただいた。
- ・また、本日は、市教育委員会の大きな課題であるスポーツ推進計画についても協議していただきたい。
- ・本日の会議では、教育行政に関する率直なご意見、ご感想をいただき、今後の教育施策に生かしていきたいと考えている。忌憚のないご意見をお願いしたい。

2) 議題1 T P Pプログラミング教育について

(日比市長)

- ・T P Pプログラミング教育について事務局から説明する。

(学校教育課長)

- ・令和4年度に、デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用して、市内すべての小中学校に人型プログラミングロボットとプログラミングブロックをそれぞれ21台ずつ整備し、それらを使用したプログラミング事業を展開してきた。プログラミング的思考を養うとともに、仲間との共同作業により、新たな発見に気づき、よりよい人間関係を築くことを目的としている。
- ・本市の取組の特徴として、市内全小中学校を対象に、人型ロボット、プログラミング可能なブロックを配布し、長期間にわたり利用できるようにしている。継続的な利用により、児童生徒のプログラミング学習や先進技術に対する積極的な活動、意欲向上を期待している。
- ・指導する先生方にとっても、継続的に授業研究を重ねること、多数の教員が横断的に本事業に関わることで人型ロボットの活用方法を教員同士で教え合うことにより、プログラミング学習方法検討の負担軽減につながっている。
- ・将来的には地域産業の活性化と、将来を担うI Tに長けたグローバルな人材育成を推進することを目的としている。
- ・小中学校のプログラミング学習授業において、児童生徒はグループ単位で1人1台タブレットを用いて人型ロボット、プログラミング可能なブロックにプログラムで指示を出す等のプログラミング教育を行い、デジタル機器との

正しい接し方を学んでいる。

- ・ロボットによる動作や会話が返ってくる双方向のコミュニケーションが可能なプログラミング学習により、現実社会とつながりを意識し、従来のプログラミング学習に加えて、コミュニケーション能力の成長を促す効果を期待している。
- ・学習や遊びの中で、プログラミング的思想や創造力を身につけることができ、デジタル機器を一層身近なものと感じ、デジタル社会を担う人材育成を図ることができる。
- ・本事業は、令和4年度からの3か年事業で、今年度は、学校を超えたイベントとしてT P Pプログラミング大会市長杯を開催した。
- ・今後、アンケート調査等を行って、3年間の事業効果を検証し、プログラミング学習をカリキュラムに組み込んでいき、また、モデル授業案、授業活用のためのカリキュラム案の作成を進める。プログラミング学習を行うことで、現実社会におけるプログラミングの作用を実感し、I C T分野に秀でた才能の開拓を見込んで進めていきたい。
- ・3年間の取組の成果を紹介する。
- ・これまで、全体として、小学5年生と中学2年生の全クラスにおいて、外部講師による授業を4～5回実施し、それ以外の取組として、学校の先生による研究授業を展開してきた。
- ・令和4年度に、神守小学校において第1回公開研究授業を行った。「かもロンと明るい未来へ」をテーマに、ロボホンを活用して、周りを楽しませたり、人に役立つ働きについて考察したりする学習活動を行った。
- ・令和4年度第2回公開研究授業は、神島田小学校で行った。「ロボ太んとW A ! 和・輪・湧」と題し、仲間との共同作業により、クラスの仲間の「好きなもの」を紹介することで、新たな発見に気づき、よりよい人間関係を築くもので、3回のプログラミング授業を先生が考え、その成果を研究発表した。
- ・令和5年度第1回公開研究授業は、神守小学校において、至学館大学の教育課程の学生と行った。ロボホンを活用して、SDG sの4つのテーマ「つくる責任、つかう責任」「気候変動」「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさを守ろう」について話し合いや考察したりする学習活動を通して、プログラミングのよさに気づかせながら、必要な能力の基盤を育成した。
- ・令和5年度第2回公開研究授業は、南小学校で行った。5年生を対象に、国語の学習の時間を活用して、「敬語を正しく使って、南小学校を紹介しよう」をテーマに、ロボホンを活用してプログラミング的思考を養うとともに、仲間との共同作業により、「自分たちの学校のよいところ」を紹介することで、

失敗を恐れず、新たな発見に気づき、敬語を使うことへの目的意識を高める授業を行った。

- ・令和6年度についても、秋に向けて研究授業を行う計画になっている。
- ・3か年事業の集大成として、8月9日（金）午前9時から東小学校体育館でT P Pプログラミング大会市長杯を開催し、市内全小中学校の児童生徒を代表し、小学生33名、中学生15名、計48名が参加した。
- ・小学生は、人型プログラミングロボットを使ってプログラムを作成するパフォーマンス部門に出場した。各小学校代表1チームを2～5人で編成し、ロボットは5台まで利用可能で、2～5分以内で発表するという大枠のみ決め、学校の様子や月の満ち欠けなど自由に様々なテーマについてロボットを使って発表していただいた。
- ・中学生は、各中学校代表1チームを作り、プログラミングブロックを使って事前に告知したコース上の課題と、当日出される課題をクリアしてもらう形式で実施した。今回は、災害対応をテーマに、道路に置かれた障害物の除去や避難物資を運ぶなどの課題を作成し、当日課題を含めて一生懸命考えて、課題をクリアしていた。
- ・最後に至学館大学の鈴木先生と、名城大学の平山先生から講評をいただき、写真撮影をして終了した。
- ・こうした3年間の取組を市内外に発信するため、5月10日（金）、東京ビッグサイトで開催された第15回EDIX（教育総合展）にて、南小学校の先生、市教育委員会の職員等で、T P Pの取組について紹介した。
- ・様々な雑誌でも市の取組を紹介していただいております。日本文教出版の「教育情報」には、教育長が寄稿した文書が掲載された。また、愛知県教育振興会の教育情報誌「子とともに ゆう&ゆう」には、神島田小学校のプログラミング授業の様子が掲載されている。この他にも、教育出版の雑誌や帝国書院の雑誌、教科書会社の雑誌等にも掲載させていただき、津島の教育の取組を全国的に発信している

（奥村委員）

- ・実際に見学に行けず残念だったが、資料で拝見し、すごい形になってきたことを改めて感じた。来年はぜひ参加させていただいて、実際のプログラミングの状況や、ロボットの動きなどを拝見できたらと思う。これだけマスコミに注目されて取り上げてもらうことはすごいことだ。
- ・最初は、小さなロボットが踊ったり歌ったりしてかわいいと思っていただけだったが、本当に子どもたちがプログラミングをしていくことを知り、それを授業として取り入れることは素晴らしいと思った。市の将来のためにも、

I C Tは必要だと思う。

(畑中委員)

- ・ すごく内容的に充実していると感じている。
- ・ 学校訪問の際、プログラミング事業を発表していたときがあったが、特別支援学級の子どもたちが、すごく表情豊かで生き生きとした顔だったことがとても印象に残っている。今後プログラミング授業が支援に活用できるとよい。

(古川委員)

- ・ 本日、このような取組があることを初めて知った。
- ・ 世界規模で開催されているロボコンの先駆けになるような取組でとても夢があり、津島市の可能性を感じた。

(小出委員)

- ・ まず1つ感心したことは、この事業を実施するにあたり、教育委員会が非常に活動的にあちこちに声をかけていたことである。学校訪問の際も、学校の様子を見ながら、ロボコンをうまく活用できているかどうか絶えず確認していた。そのため、学校の先生方も一生懸命やってみえる。この姿勢がないことには、いろんな事業は進まない。
- ・ 市長が先頭に立って進めているため、教育委員会を通じて学校や先生方が自信をもって進めている。先生方が自信を持つと、子どもにそれが移り、子どもは授業に意欲的になる。
- ・ 子どもたちが集まって話しながら何か1つのことに取り組むことは、子どもたちを相互に育てていくことにつながり、人間関係を築くことにもつながる。今後も期待している。

(浅井教育長)

- ・ 市長の指揮のもと、全員が一丸となって、令和4年9月からの2年でこれだけまとめることができた。今後どのように続けていくか、これからどうしていくかが非常に大きな課題である。
- ・ T P Pプログラミング大会市長杯で子どもたちの様子を見ていて、やりながら試行錯誤し、筋道を立て直してもう1回やり直すことで、論理的な思考力が身につくと感じた。
- ・ 大手教科書会社の雑誌にT P Pについてたくさん取り上げてもらい、T P Pプログラミング大会市長杯当日は、大手教科書会社や大学の先生方、リコーやシャープの方、教育事務所や県教育委員会、高校の先生方も来てくださったが、広く知ってもらうため、もう少しマスコミに働きかけができればよかった。これだけの大きな事業で、もっと注目してもらうことができなかったことが反省点として残っている。

- ・この事業には、市長の発案で、若手の先生方を活かすため、若手の先生方に参加していただいた。学校現場では、学校の組織をもっと上手に使ってほしい、若手の先生に負担をかけないでほしいといった意見もあったが、この事業に抵抗感を感じる先生方もたくさんいたため、若手の先生方に引っ張っていただいていたと感じている。

(日比市長)

- ・日本はデジタル分野で世界に30年遅れていると言われているが、子どもたちは将来、プログラミングなどデジタルに対応しなければいけない。そのような中、デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用して、日本最大規模で人型プログラミングロボットとプログラミングブロックをそれぞれ21台ずつ整備して、プログラミング教育を実施することとなった。
- ・TPPを実施するにあたり、2～3年前、先生方は夏休みに何回も勉強会を行った。勉強会を見に行くと、先生方もいい顔して取り組んでおり、特に若い先生方が頑張っていた。
- ・本市では、「楽しくて役に立つ」教育を目指している。プログラミングは難しいが、「最終的に役に立つ」というキーワードのもと、今後も取り組んでいく。
- ・しかし、津島市でプログラミングプロジェクトをやっていることを知らない人が多く、自分の子どもが授業で学んでいても知らない方もいる。今後は、家庭の中でも話題になって、自分の子どもが小中学校でプログラミングについて学んできたことが誇らしいと言ってもらえるようになるとうい。
- ・3か年事業が終わり、次年度以降に取り組む際は、もっと楽しんで取り組み、一部の方に注目されて終わってしまうのではなく、広くPRできるとよい。

2) 議題2 津島市スポーツ推進計画(仮称)について

(日比市長)

- ・津島市スポーツ推進計画(仮称)について事務局から説明する。

(教育委員会事務局次長兼東公園整備推進室長)

- ・津島市スポーツ推進計画は、スポーツ基本法に基づくスポーツ基本計画や、愛知県スポーツ推進計画、津島市総合計画などを踏まえ、スポーツが楽しめる環境の充実やスポーツによる地域活性化を図るために策定する。
- ・この計画は、令和5年度9月補正により予算計上して策定を進めており、今年度中に策定する予定。
- ・計画期間は令和7年度から令和16年度の10年間だが、スポーツ施設整備方針は20年間の方針となる。

- ・これまで、東公園のスポーツ施設は老朽化が進んでいるものの、整備方針がなく整備ができていなかった。
- ・また、東公園の北側には、令和9年度には名古屋津島線バイパスが開通予定であり、東公園は名古屋から20分の距離となり、東公園地域のポテンシャルは高いと考えている。
- ・さらに、東公園の北側にある市民の森はあまり手をかけておらず、東公園、市民の森、その間の土地や東公園の南側の土地も含めた地域一帯の整備を検討する必要があることから、本計画を策定する。
- ・性別や年齢、障がいの有無にかかわらず、スポーツを通して、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもつながることができるスポーツのまちに、また、市民、地域、様々な関係団体、機関などが連携・協働し、スポーツに親しめる環境づくりを進めることで、よりよい未来の津島にしていこうという思いを込め、基本理念を「スポーツで つながる・つくる 未来の津島」とした。
- ・「スポーツで つながる・つくる 未来の津島」を実現するため、「するスポーツの推進」「みるスポーツの推進」「ささえるスポーツの推進」「つくるスポーツの推進」の4つの基本目標を設定した。
- ・「するスポーツの推進」では、誰もがスポーツを楽しむための機会を提供し、「みるスポーツの推進」では、スポーツ観戦による感動などを得るだけでなく、スポーツを実施するきっかけにつながる機会を創出する。「ささえるスポーツの推進」では、スポーツを支える担い手の育成や、様々な主体との連携体制の充実を図り、「つくるスポーツの推進」では、「する」「みる」「ささえる」スポーツを推進するための環境を創出する。
- ・施策体系では、「する」「みる」「ささえる」「つくる」スポーツの推進のための基本施策や取組を示している。
- ・「するスポーツの推進」では、子どもや多様な主体が親しめるスポーツの推進を基本施策として、具体的な取組を示している。
- ・「みるスポーツの推進」では、誰もがスポーツに親しめる機会の創出や、スポーツによる地域活性化を基本施策として、具体的な取組を示している。
- ・「ささえるスポーツの推進」では、スポーツ指導者の発掘、育成やボランティアの育成、活動推進を基本施策として、具体的な取組を示している。
- ・「つくるスポーツの推進」は、津島市スポーツ施設整備方針としており、スポーツ施設整備の基本的な考え方や、既存スポーツ施設の機能向上や利便性向上を基本施策として具体的な取組を定めていく。
- ・達成状況を適正に評価するため、基本目標ごとに具体的な目標を設定し、PDCAサイクルに基づき、進捗管理を行う。

- ・目標設定にあたっては、国や県の計画を参酌し、実現可能な目標を設定する。例えば、「するスポーツ」では、週1日以上運動やスポーツを行った割合の中間目標を70%としているのは、国で、令和7、8年度に70%という目標設定をしているためである。
- ・「する」「みる」「ささえる」スポーツを実現するため、今後は、スポーツ推進計画や施設整備方針に沿って、東公園地域周辺の現況や市民ニーズ等を捉え、東公園を一体的に整備するために必要な整備基本方針、整備のための事業手法や課題、資金調達など、実現可能な東公園一帯の整備のための基本構想を策定していきたい。
- ・計画を遂行するには透明性をもって情報発信することが非常に重要だと考えており、進捗状況を発信するため、津島市スポーツ振興通信を発行している。第1弾では津島市スポーツ計画を策定する目的、第2弾ではアンケートの結果、第3弾では基本理念について発信した。ホームページでも情報を公開しており、津島市スポーツ振興通信の裏面の二次元バーコードから情報を読み取れるようにもしている。情報発信はしっかりやっていきたい。

(小出委員)

- ・東公園地域周辺の現況は周りを見ると大体わかるが、市民がすごく減ってきており、子どものスポーツクラブは縮小傾向で、中学校の部活動もなくしていく傾向にある中で、市民ニーズを把握して意識を高めることは非常に難しい。一部局でやることは非常に難しいと思うので、市長を先頭に市全体で取り組まないと、意識は高まってこない。
- ・市長は絶えず朝のラジオ体操に行っているそうだが、市民に来てもらうためには、みんなも行こうと思える雰囲気を作らないといけない。例えば、8時15分になると市職員がラジオ体操をするなどして、市が率先して雰囲気づくりするとよい。そうすれば、会社でも体操の時間を作っていただく流れにしやすと思う。
- ・年を重ねると、運動はやりたくなくなるが、友達が行く、近所の人が行くようになると、自分も行く気になる。やる気を起こしてもらうために、雰囲気づくりをどうしたらよいかということも考えなくてはならない。

(古川委員)

- ・今、スポーツというよりも、健康という観点から体を動かすことに注目が集まっている。
- ・都市部では、ちょっとした運動ができるスペースが次々と増えている。そのような施設は、スポーツというより、何かを維持する、何かを予防するための施設として流行している。ただ一方で、ちょっとしたときに何か楽しめる

場所を提供してもらえるとよいとも思う。例えば、ガード下や公園の隅にバスケットボールのゴールが設置してあれば、ボールを持ってシュートしてみたい。或いは、テニス1つとっても、好きな時間に壁打ちができる場所があるとよい。

(畑中委員)

- ・スポーツジムが身近にあったら行きたいという健康志向を持った人たちはたくさんいると思う。
- ・愛西市の親水公園はジム施設が多い。何年も前から、このような施設が津島市にもあったらすごくよいという声をよく聞く。津島市に手軽に寄れるジム施設やスポーツトレーニング施設があれば、スポーツをやってみようと思える人も多いと思う。子ども向け施設も重要だが、大人世代向けのスポーツ施設も重要だと思う。

(奥村委員)

- ・天王川公園が整備され、とても環境が良くなったため、夜ランニングする人が増えた。駐車場も整備されたため、車で来て走っている人も多い。また、中高生も陸上の練習をしたりしている。同様のものを東公園に作っていただきたい。社会活動している人は夜に活動するため、管理が難しいと思うが、時間制限なく活動できるようになるとよい。
- ・天王川公園をいつも見ているので、スポーツができる設備や環境を整えたら、みんなが動き出すのではないかと感じているので、東公園もそのような活動拠点になれば、みんなが健康を考えるとと思う。

(古川委員)

- ・人間ドックに行くたびに、軽度の運動を週に何回かするよう指摘されるが、何をすればいいかわからない。ランニングも敷居が高くてできない。周囲の人も、人間ドックで同様の指摘を受けると話していた。若い方向けのスポーツも確かに大切だが、今後成人病予防を控えている世代にとって、医師が指導する軽度な運動を具体化してもらえると、運動に取り組みやすくなり、ありがたい。

(市長公室長)

- ・名古屋津島線バイパスの開通について、1点補足させていただく。
- ・資料を見ると、名古屋津島線バイパスが令和9年度に東公園まで開通し、東公園が名古屋から20分圏内になるように見えてしまうが、名古屋津島線バイパスは、名古屋から西尾張中央道までを令和9年度に開通することを目標としており、東公園まで開通するには少し時間がかかる。

(浅井教育長)

- ・スポーツ推進審議会には関係団体の方たちが多いため、審議会では施設の話が多い。アスリートを養成するのか、生涯スポーツとして位置づけるのかで内容が変わってくる。皆の意見として、今後、整備・充実を希望する公共スポーツ施設は、プールと総合体育館が多いが、今日、パリオリンピックに出場したバスケットボールの山本麻衣選手がお見えになった際、アリーナがある体育館がほしいと言われた。基本理念を踏まえつつ、施設の充実を企業に応援してもらいながらやるのかを含め、検討していきたい。
- ・今、スポーツに関する施策や事業を体系化し、総合的に推進することを目的に津島市スポーツ推進計画を策定することで、10年先、20年先のスポーツ行政に大きな影響を与える。ただ、絵に描いた餅にならないように気をつけなければならない。
- ・施設のことを考える際には、様々なところにある施設とない施設を見比べ、広域的に考える視点も大事である。この地区には錬成館のような武道施設が他にないため、錬成館を大事にしてほしい。
- ・今朝、山本選手が来てくださったが、山本選手はけがで2試合欠場したため、落ち込んでいるのではないかと、どういう言葉をかけたらいいかと思って顔を見たら、非常に明るく前向きで、もう次のロサンゼルスオリンピックに目を向けていた。アスリートのポジティブな考え方や前向きな姿勢は本当に勉強になる。そういった面で、模範となるアスリートは大事だと改めて思った。

(日比市長)

- ・組織として、今後、東公園をスポーツの拠点として戦略的に位置づけてスポーツを市民に発信するため、今年4月に東公園整備推進室を立ち上げ、今年度、津島市スポーツ推進計画を策定する。
- ・名古屋市から車で30分の距離で、10万㎡以上の面積のある広大なスポーツ公園は、この地域では東公園だけである。市民の森を含め、東公園をさらに南に広げることになれば、さらに大きな可能性をもった公園として位置づけることができる。
- ・昨年度、市内小学5年生と中学2年生、スポーツ協会等の団体、学校体育施設開放事業の登録団体を対象に、今後どのような施設を充実してほしいかなどのアンケート調査を実施した。
- ・具現化するために、東公園は立地もよく価値ある場所であることを発信して、天王川公園に大和リースが投資してくれたように、東公園への民間投資を促していきたい。
- ・名古屋津島線バイパスは、令和9年度には西尾張中央道まで開通する。西尾

張中央道まで開通すれば、広域交通網が1つでき上がり、交通アクセスが大きく変わる。

- ・東公園は面積が広いため、市民だけでなく、名古屋津島線バイパスを利用して様々な地域の人に利用してもらえるような整備計画ができるとよい。
- ・よい戦略を立てても、伝わらなければ意味がない。様々な人たちに伝えるため、津島市スポーツ振興通信を出して情報発信している。教育委員の皆様にも、後日津島市スポーツ振興通信の第1弾、第2弾もお渡しさせていただきたい。

3) その他

(企画政策課長)

- ・次回の総合教育会議について、日程が決まり次第教育委員会を通じて連絡する。